

## 【 令和7年度 経営方針 】

現下の高齢者福祉介護施設・事業所は、2040年問題をはじめ様々な地域特性の変化に応じて、生産性の向上や担い手確保等の対応をすすめ、地域の介護と福祉を守っていかなければならない。

一方、足元では世界情勢による物価高騰の影響で経営が厳しさを増す中、競合先や他業種へ人材が流出するなど、人材不足に拍車がかかっている。

国においては昨年11月石破総理が開催した経済財政諮問会議において、医療や介護などの現場でロボットやICT機器の活用を通じた生産性向上による経営基盤の強化や勤務環境の改善によるさらなる賃上げ支援などについて原案が盛り込まれた。

また、離職率を下げ職員から選ばれる高齢者施設の実現に向けて、心理的安全性の職場づくりを目指す機運も高まりつつある。

令和6年度の決算は、ショートステイ事業の休止も相まって4年連続のマイナス決算になることは必至である。

令和7年度については、生産性の向上と業務改革、担い手確保等の対策をすすめ、「サービスの質の向上と効率性の確保」に努めながら経営の立て直しを図らなければならない。

同時に、慈恵園心条や理念を実践するため、多職種が協働して利用者個々の意思を尊重し、利用者一人ひとりが生き甲斐や楽しみを持ち、その人らしく自立した生活を送ることができるよう、次の方針を掲げ取り組みを行うこととする。

- ① 生産性の向上と経営基盤の立て直し
- ② 職員確保と心理的安全性の推進
- ③ ユニットケアの理念の徹底と連帯意識の高揚

## 【 経営方針の具体化に向けた考え方 】

### ① 生産性の向上と経営基盤の立て直し

- ・ 人が足りないことを前提とした新しい運営体制を構築するため、職場環境や日々の業務にある（ムリ・ムダ・ムラ）を無くし、利用者に接する時間を創出する。
- ・ ICT機器や介護ロボットの導入・更新により業務効率化とデータ連携の推進を図る。
- ・ 経費削減、加算確保に向けた取り組みなどを積極的に行い経営の立て直しを図る。

### ② 職員確保と心理的安全性の推進

「リスクを感じないで率直な意見が言える。」「困ったときに助け合い解決策ができる。」  
「チャレンジが得だと考える」「一人ひとりが個性を発揮して活躍できる。」  
このような心理的安全性の高い職場環境を作り、離職率の低下と職員確保に努める。

### ③ ユニットケアの理念の徹底と連帯意識の高揚

厳しい状況下にあっても「高齢者の尊厳を保つ」とするユニットケアの普遍的な理念を徹底するため、施設内研修はもとより、感情や態度をコントロールするための「自己覚知」の研修や専門的研修への積極的参加を促し、個々の知識・技術の向上を図るとともに、職員相互の人格を尊重し合い連帯意識の高揚に努める。

# 令和7年度 社会福祉法人慈雲会 部門別目標

## < 介護部門 >

### 1、目標

施設理念のもと、入居者一人ひとりが今までの生活を継続できるよう、また、家族が求める施設となるように個別ケアを充実させ、安心・安全な暮らしを支援する。

### 2、計画

#### ① 家庭的な環境のもと、安心できる暮らしのサポート

- (1) 入居者個々の生活リズム、意思・人格、習慣を尊重し、家族の希望を受け止め、情報を交換して多職種で共有し実践する。
- (2) 入居者の今までの生活を継続するためには、24 時間シートが最も重要となる。入居者や御家族からの細かな情報収集やユニット職員・多職種が気づいた点も取り入れながら 24 時間シートを作成し、活用することで統一したケアに繋げていく。
- (3) 入居者の居場所作りに配慮したくつろげる空間をつくる。
- (4) 地域との社会的関係を保つためにも、感染防止対策を取りながら外出の機会の提供、行事計画等を実施し、生活意欲の向上につなげる。

#### ② ケアマニュアルの徹底

- (1) 入居者、職員間での名前の呼び方は、苗字もしくはフルネームをさん付けで呼ぶ。
- (2) 言葉遣いに気を付ける
- (3) 入居者との会話は、目線の高さを合わせ、声の大きさ、声のトーン、敬語のバランスに気を付けながら、相手の話を受け止める。
- (4) 職員研修指導員をおき、ケアマニュアルを徹底する。
- (5) 各種研修に参加し、職員のスキルアップを図る。

#### ③ 事故を減らし安心安全な暮らしの提供

- (1) 同じ事故を繰り返さないように分析をしっかりと行う。  
常に「・・・だろう」ではなく「・・・かもしれない」を念頭におき、行動する。
- (2) ICT機器導入の検討及びモデルユニットの開始

## < 看護部門 >

### 1、目標

入居者が安心して暮らせるよう健康状態を把握し、感染症を持ち込まない、持ち出さない、拡大させないよう努める。

### 2、計画

#### ① 健康観察と異常の早期発見

- (1) 嚥下状態や皮膚状態、排泄などの体調に変化がないかを観察し、専門性を生かして支援する。
- (2) 嘱託医と情報共有を行い、体調不良者については指示を仰ぐ。
- (3) 御家族とコミュニケーションを図り、日頃の健康状態や体調不良時に、分かりやすく状態報告を行う。

#### ② 感染症の発生予防

- (1) 職員は自身の健康管理を行い、出勤後、退勤前、外出時は作業着を着替えるよう徹底する。
- (2) 介護職員へ防護具の着脱訓練の確認と指導を行う。
- (3) 感染症研修会を行い、認定看護師や医師から情報収集を行う。

#### ③ 職員の資質向上

- (1) ユニット会議への参加を通じ、介護職員と情報収集や共有を行い、個別の支援ができるよう努める。
- (2) 外部研修会に参加し知識を深め、他の職員に共有し職員の資質を向上させる。

## < 生活相談員部門 >

### 1、目標

入居者・ご家族・地域からの信頼をさらに向上させるため、安心安全な生活環境の構築、地域に対する取り組みの強化、生活相談員としての専門性の向上をテーマに以下の取り組みを推進します。

### 2、計画

#### ① 事故防止対策システムの再構築

- (1) 毎月のケアプラン会議時に、ユニットにおいて発生した事故についての対策状況の確認を行う。
- (2) 毎月のケアプラン会議時に、事故防止の取り組みについて 10 分程度事故防止対策についての情報共有を行う。
- (3) 事故顛末書の作成方法の明確化と事故後の対策立案方法の具体例を提示する。

#### ② 空床発生から新規入居までの目標期間を 2 週間以内と設定

- ・ 空床発生から新規入居までの目標期間を 2 週間以内と設定する。

#### ③ 新入職員研修の見直し

- (1) 職務研修指導員と連携し、新入職員研修内容と日程調整方法を明文化する。
- (2) 新入職員研修に e-ラーニング(動画教材)を導入する。

#### ④ 福祉避難所としての機能の確立

- (1) 必要備品を予算化し、速やかに購入する。
- (2) 購入備品の置き場を確保し整理し備蓄する。
- (3) 備蓄が揃ったら運営推進会議において実際に見ていただき、意見を聴取する。
- (4) 実際に備品を使用して避難者受け入れ準備の訓練を年 2 回実施する。

#### ⑤ ご家族との連携強化

- (1) 家族会と連携し今年度中の家族会総会開催をサポートする。
- (2) 家族会が開催されない場合でも施設が主催し、ご家族が一堂に会する説明の場を設ける。

#### ⑥ 介護保険制度学習支援

- (1) 学習意欲のある職員に毎月 1 回程度、介護保険に関する勉強会を開催する。
- (2) 施設で e-ラーニングツールを契約し、いつでも視聴できる環境を作る。
- (3) 職員の意向に合わせ、介護支援専門員実務研修受講試験受験への学習協力を行う。



## < 介護支援専門員部門 >

### 1、目標

ご本人のその人らしさを各職種が主体的に把握し、ケアや日課に取り込む。入居者の尊厳を保持し、その有する能力に応じ自立した日常生活を送ることが出来るよう個別ケアマネジメント\*を展開し、家族や地域とのつながりを大切にしながら、入居者一人ひとりが生きがいや楽しみを持ち、その人らしい生活を送ることが出来るよう多職種と連携を図り支援する。

### 2、計画

#### ① 他部署との連携

- ・ 各職種が専門職として主体的に考えられるようなコミュニケーションを図る。

#### ② 入居者の状態把握

- ・ 施設の過ごし方でなく、自宅でのその人らしさとその人らしく生きるための問題点をアセスメントするため、専門職（介護・看護・栄養・訓練・CM）での検討会議を行う。

#### ③ 施設サービス計画の作成（看取り介護計画を含む）

- ・ 入居者及び家族に参加していただく担当者会議を開催し、施設サービス計画書及び 24 時間シートの説明を各職種が行う。（専門職としての説明責任）

---

\* ケアマネジメント … 福祉や医療などとそれを必要とする人をつなぐ手法のこと

## < 栄養・調理部門 >

### 1、目標

施設理念のもと、入居者の訴えに耳を傾け寄り添い、ご本人様の希望に沿った安心で安全な食事の提供を行う。

### 2、計画

#### ① 適切な栄養管理の実施

- (1) 入居者の希望と咀嚼・嚥下能力、健康状態に適した栄養ケアプランの作成を行う。
- (2) 体調の変化等に応じて、多職種と連携し迅速に対応する。

#### ② 入居者様とのより良い関係性の構築

- (1) ユニット調理の日など、可能な限り担当ユニットに出向き、入居者とのコミュニケーションを取る機会を作る。
- (2) 見守り等の協力が出来るようにする。

#### ③ 食事改善委員会の計画的な実施

- (1) 季節感のある食事の提供方法を考え実行する。
- (2) 食糧費等の物価高騰に合わせた給食管理を考える。
- (3) 残飯量を減らす方法を考える。

## < 機能訓練・レクリエーション部門 >

### 1、目標

入居者お一人おひとりのご希望や生活機能に基づき、笑顔で楽しく安心して過ごしていただけるよう支援していく。

### 2、計画

#### ① 入居者の活動量や生活範囲を拡大させる

- (1) 日頃より入居者から、やってみたい活動やご希望を伝えていただけるように、丁寧な言葉・柔らかい姿勢で対応する
- (2) やってみたい活動を、実現可能にするために前月までに実施予定日や活動内容について入居者の意向を確認しながら現場スタッフを含め計画書を作成する

例) いつもは園内しか自由に歩けないが、近くのお店や神社までゆっくりと歩きたい

例) 晴れた日にウッドデッキで大きな声で歌を楽しみたい

#### ② 訪問販売の開催

- なごみ号 (第1水曜日、第3水曜日、第5水曜日)
- みやおみやおベーカリー (第2水曜日、第4水曜日)
- ・ 開催前金曜日までに、入居者からのリクエスト商品を業者へ依頼する
- ・ 開催日の付き添いスタッフ等の把握

#### ③ サロンの実施

- ◎ 年2回実施
  - ・ 第1回 … 体操やカラオケ等
  - ・ 第2回 … アロマオイル使用した手浴とハンドマッサージ等

#### ④ 個別機能訓練加算Ⅱ算定

- (1) ADL維持向上等体制加算に係る評価表作成
- (2) 個別計画書Ⅱ作成

## < 総務部門 >

### 1、目標

法令に基づいた社会福祉事業の実施、経営基盤の立て直し及び職員の適正な労務管理を行う。

### 2、計画

#### ① 法人の適正な運営

- (1) 労務管理システムの導入検討
- (2) 経営協ドックを活用して経営分析し、客観的な経営状況の把握と必要な改善策を講じる
- (3) 平時からコスト意識を持ち、価格交渉を行う。
- (4) 設備・備品整備計画書による計画的な設備・備品購入の予算化

#### ② 適正な介護報酬請求への取り組み

- ・ 生産性向上委員会を中心に算定可能な加算については、積極的な収入確保策に取り組む。

#### ③ 外部研修への参加と事務の互換性の強化

- (1) 外部研修等に積極的に参加し、事務知識の向上を行う。
- (2) 事務の互換性を高めるために、事務マニュアルを作成する。(請求業務・給与計算)

#### ④ 接遇向上への取り組み

- (1) 接客は、常に笑顔で、親切、丁寧、適切に、電話への対応は迅速に行う。
- (2) 電話対応マニュアル作成とその実践。

#### ⑤ 営業活動の取り組み

- (1) 各事業所へ営業活動の実践を促すよう取り組む
- (2) ホームページや SNS を積極的に活用し、情報発信に努め利用者増加や職員募集へ繋げる。

## < デイサービスセンター >

### 1、目標

利用者及び、ご家族の意向と状況把握に努め、より良い在宅生活が継続できるよう支援します。

### 2、計画

#### ① 利用者がやりたいこと興味あることの提供

- (1) 月1回ミーティングを開催し、職員間で情報共有を行う
- (2) 利用者様の意向に反映した活動メニューの提供を行う

#### ② ご家族との連携

- (1) 送迎時にコミュニケーションを図る
- (2) 連絡帳による情報交換で利用者様の満足を知る

#### ③ 利用者数を増やす

- ・ 1日利用者数 25 人を目指す

#### ④ 事故防止

- ・ 送迎時の事故防止に努める

### 年間行事

月	行事計画
4月	花祭り法要
5月	新茶会 しょうぶ湯 母の日プレゼント
6月	父の日プレゼント
7月	七夕
8月	ミニ夏祭り 新米会
9月	敬老会
10月	新米会
11月	干し柿作り
12月	ゆず湯 クリスマス会 忘年会
1月	正月行事
2月	節分会
3月	お花見 おひな様飾り作り

## < 居宅介護支援センター >

### 1、目標

介護保険の基本理念である「高齢者の自己決定権の尊厳」、「自分らしい生活の継続」及び「自立支援」を基本とし、常に利用者の意向を踏まえ、自立支援に向けた居宅サービス計画を作成する。また、そのプランに従ってサービスが提供されるよう多種多様の事業者と調整し、可能な限り住み慣れた居宅での生活が継続できるように支援していく。

### 2、計画

#### ① 人材育成と確保、専門職としての資質向上

- (1) 行政や病院等主催及び内部の研修会に参加する事での顔の見える関係性の構築
- (2) 週1回の困難事例の支援方法等の事業所内での検討・協議
- (3) 主任介護支援専門員である管理者の地域の介護支援専門員に対する助言・指導や研修会の企画・運営の実施及び介護支援専門員の研修への参加
- (4) 新しく配置する介護支援専門員に対する人材の育成と定着
- (5) 管理者を中心とした風通しのいい職場環境の醸成と職員間の関係性の構築
- (6) 介護支援専門員実務研修及び社会福祉士養成コースの受け入れ実習施設としての準備及び体制整備

#### ② 生産性の向上及び運営管理の徹底

- (1) ICTを活用した他事業所との情報連携及び業務改善や経費削減の徹底
- (2) 週1回事業所内でのミーティング及び事例検討会の実施
- (3) 特定事業所加算Ⅲの算定及び予防給付での市の指定取得（介護支援専門員常勤換算3名配置の場合）
- (4) 年間相談件数40件の達成
- (5) 毎月のレセプト件数100件の達成
- (6) 初回訪問から2週間以内でのサービス開始の達成

## < 多機能ホームやまぐち >

### 1、目標

利用者の自宅での「困りごと」や「やりたい事」、またそのご家族の困りごとをコミュニケーションの中から把握する。また、「やりたい事」を利用者本位の視点で支援していくために、生活圏域の社会資源を確認・活用できるよう職員一人一人が気付きや実現の視点を持って取り組んでいく。

### 2、計画

#### ① 利用者の困りごとややりたい事を知る

- (1) 利用者の人生に関心を持ち、知ろうとする姿勢を持つ。
- (2) 利用者の誕生日には、利用者の「やりたい事」を担当職員が計画を立て一緒に行く。
- (3) 運動や活動、交流を通して寂しさが和らぎ、楽しみを感じられるよう地域の方との関係づくりや交流の場の提供を行う。

#### ② ご家族の困りごとを知る

- (1) ご家族の困りごとに関心を傾け、共感していく。ただし、利用者の不利益となっていないか、多職種の視点で判断できるよう職員ひとりひとりが傾聴・共感に取り組み、ご家族との信頼関係の構築に努める。
- (2) ご家族へSNS活用の周知を図り、情報共有のツールを増やす。

#### ③ 社会資源（サロン他）の活用及び地域に求められる事業所を目指して

- (1) 地域の民生委員や包括等との連携を図り、どんな社会資源があるかを運営推進会議等で議題に挙げ意見を求める。
- (2) 災害に応じた役割が実践できるよう地域と協力して、避難訓練などを実践していく。また、防災備品の他、非常食等の備蓄管理を行う。

#### ④ 職員の資質向上と働きやすい事業所づくり

- (1) テーマに沿った定期的な研修会を実施する。
- (2) ITの新規導入により業務の効率化を図り、必要に応じて勤務時間の見直しを行う事で柔軟なサービス提供を行う。
- (3) 職員間のコミュニケーションをスムーズに行い、気軽に相談や話ができ、職員同士がお互いを気遣い合える雰囲気作りに努める。
- (4) 定員（29名）を目指す。

#### ⑤ 年間行事計画

4月	花祭り（無畏庵）、御田植祭り ドライブ（花見他）	10月	ミニ運動会、コスモス畑見学
5月	菖蒲湯（5/3～5/5）、花菖蒲見学 新茶会、ほたる祭り	11月	諏訪神社例大祭見学 南小マラソン大会応援
6月	七夕飾り（6月中旬） 水災害合同避難訓練（やまぐち保育園と）	12月	柚子湯、クリスマス忘年会 保育園交流（遊戯・ハイヤ披露）
7月	かき氷会、すいか割	1月	初詣、正月遊び（福笑い、書初め）
8月	ドライブ	2月	梅鑑賞、節分、ドライブ
9月	敬老会（やまぐち保育園と）、避難訓練	3月	ひな祭り、避難訓練、菜の花見学